

令和6年度 第3回 三ヶ日中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年10月9日（水） 15時00分から16時30分まで
- 2 場 所 三ヶ日中学校 会議室
- 3 出席委員 高橋一浩、御園崇、渥美浩明、清水一則、岡本和久、寺田祐真、石田義樹、鈴木あゆみ
- 4 欠席委員 長坂恭輔、清水久美子
- 5 オブザーバー 藤山勝子（三ヶ日支所）
- 6 学 校 江間昌史（校長）、宮津宗之（教頭）、岡田充弘（教務主任）、西田光男（CS ディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 西田光男

9 議長の選出について

出席した委員から、議長の選出について、これまで同様に高橋会長を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）三中祭について（総合的な学習の時間の在り方について）
- （2）これまでの学校の様子について（現在の課題と改善策について）
- （3）これからの学校教育について（部活動の地域移行・臨時通学路の安全確保）

11 会議記録

司会の宮津教頭から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）三中祭について（総合的な学習の時間の在り方について）

議長の指示により、教頭から三中祭における生徒の発表方法の変更や今後の総合的な学習の進め方の変化について説明があった。また、校長からは学習を個別化するところからスタートし、個別で追究していく意識や力を高めたいというねらいが説明された。総合的な学習の今後の展望を含めて、感想や意見を求めたところ、委員より以下の発言があった。

- ・元々は個人の課題だったものがどのようにして、今の7つのグループとして活動するようになったのか。（岡本委員）

→「20年後の三ヶ日町の活性化」というテーマの元、生徒それぞれの考えを出し合い、アドバイザーさんからの支援を受けながら、現在の形になった。

(江間校長)

- 似たようなテーマが出てくればグループ化していくということなのか。テーマを個別にするとすると、生徒数だけのテーマが出てくることになるかもしれないが、どのようにして数グループに収斂していくのか。

(岡本委員)

→現在は7つの選択肢から生徒たちが選んでスタートするが、個の課題を設定してスタートすることになる。そこから、アドバイスを与えたり、話し合いを重ねたりしながら進めていく。

(宮津教頭)

- 先生方の中に「このような課題から順に進めていく」というようなビジョンがはっきりとあるというわけではないということか。

(岡本委員)

→「三ヶ日町の未来」というテーマの元、生徒が課題を設定できるように支援をしていく。また、アドバイザーさんからの助言も受けていくことになると思う。その活動を通して、自分のテーマという意識が高まればよい。

(宮津教頭)

- テーマが自分ごととなっていくとよいと思う。また、以前寺田委員が提案されていたように、三中祭以後に来年度に向けての活動を始めるのが良いと思う。

(岡本委員)

- テーマについて、自治会からの提案になるが「オレンジふれあいバス」の利用率があがる方法を中学生の皆さんにも考えてもらえたらと思っている。また、三ヶ日花火大会を地域全体の行事として盛り上げていきたいと考えているので、そのためのアイデアを中学生からも出してもらえたら、と思っている。可能ならばこの2点をテーマの候補として考えていただきたい。

(清水一則委員)

- アドバイザーさんがそのままならば、テーマをアドバイザーから提案するのはどうか。

(石田委員)

→アドバイザーさんに助言をお願いするのはもちろんで、その他にも市内にある人材活用ベースを利用する方法もある。

(宮津教頭)

- テーマを考えると、教員からのヒントやアドバイスなどはなしで、まずはゼロベースから考えさせるということか。

(岡本委員)

→三ヶ日町の課題を示すことで、個人のテーマを見つけるための助けとしたい。

(江間校長)

→「自治会からの講話」というような時間を設けるのもよいと思う。

(宮津教頭)

- グループが大人数になると、課題追究が人任せになりがちな生徒も出てくるので、個別でテーマをもたせるようにするのはよいと思う。テーマを見つけることで、活動の目的も明確になっていくと思う。一方で、生徒に課題追究や課題解決、

あるいは達成を求めていくのであれば、そのための予算を考えておいてほしい。

また、ただみんなで活動すればよいというものでもなく、そこに至るまでの手順や手続き、申請などといったことを学ぶのも大切だと思う。

これは質問だが、1年生はどのような流れになるのか。（寺田委員）

→課題を踏まえて、1年生がどのようにテーマを設定していくのか、なかなか難しいところであるので、検討していきたい。1年から3年までが系統的に行うので、3年間のつながりも大切にさせたい。（宮津教頭）

- 縦割りの場合、3年生が1年生に教えるというようなことにもなる。そういう活動も重要だし、自分はチームのために役立っているという自己有用感がもてることも大切だと思う。（寺田委員）
- 総合的な学習の時間での、縦割りの活動を通して、主体的に学べるような子供に育っていくことを期待します。（鈴木委員）
- 先程、自治会から出されたような課題が解決できるように、先生方やアドバイザーさんからも支援していただけたらよいと思う。（渥美委員）
- 今までの活動でテーマが標準化されてきて、効率的に進められてきたこともあったと思うが、改めて生徒さんたちの思いを大切にして、そこからスタートするのはよいと思う。その後、現在のテーマと同じということになっても、さらにブラッシュアップするかもしれない。また、部活動の地域移行の問題を総合的な学習の時間に考えてみるのもよいかと思う。（御園委員）
- 部活動の地域移行は指導者確保の問題や、指導法の問題など、難しい問題を抱えているが、子供たちの意向を生かすようにしてもらいたい。（高橋委員）

（2）これまでの学校の様子について（現在の課題と改善策について）

- 合唱コンクールでは、それぞれの学年の発表を聞くことができとてもよかった。また、先日の平山小学校の運動会に中学生が来てくれてとても助かった。

（清水一則委員）

- PTA 教育後援会などの PTA 行事の際にも、学校運営協議会のメンバーに声を掛けていただければ、PTA の活動にも関わりがもつことができありがたい。私は学校支援コーディネーターを務めていて、少しずつ認知されるようにはなってきたが、まだまだなので、そのような機会をとらえて学校運営協議会は「子供を育てる地域の組織だ」ということを分かってもらいたい。（寺田委員）
- 学校運営協議会は本年度で5年目になるが、PTA への浸透はまだまだだし、地域にも認知度は低いので、もっと PTA や地域に伝えていく必要がある。

（高橋委員）

(3) これからの学校教育について（部活動の地域移行・臨時通学路の安全確保）

ア) 部活動の地域移行について

部活動の地域移行については、会の冒頭の校長挨拶の中で説明があり、議長がそれをふまえての感想や意見を求めたところ、以下のような発言があった。

- まずは、予算の問題があると思う。どの程度まで保護者に負担を求めるのか。また、保護者はその負担をどこまで受け入れるのか、見通せていないように思う。けがをした場合の対応や保険の問題もはっきりさせる必要がある。（高橋委員）
- 休日の大会や練習試合の参加での引率はどうなるのか。（清水一則委員）
→ 地域クラブの指導者が引率することになると思われる。（江間校長）
- 市や町といった地域ごとに部活動地域移行への対応は異なっているのか。

（清水一則委員）

→ 地域ごとに異なっている。浜松市の場合は、地域が広いためその地域の実情に合わせて対応することになると予想される。（宮津教頭）

- 地域移行された場合、全体統括者というか主体となるのは、学校なのか地域なのか決まっているのか。地域が主体となると、部活動全体についての裁量を民間に委ねるということになるのか等、分からない部分が多い。また、生徒の希望があれば2つの部活を掛け持ちしたり、あるいは新しい部活を発足させたりすることもあり得るのかということも知りたい。指導者については、民間の指導者が、例えば平日の2日だけ学校で指導するというのは可能なのか、それを学校側が外部指導者として受け入れるのかということもはっきりさせたい。休日だけ地域移行となると指導者はボランティアでないと難しいのでは、と思われる。長期的にというか最終的にどういう形を目指しているのか見えていないところが多いと思う。（寺田委員）
- 休日の部活動を地域に委ねたいというのが、当面の考えということで、いずれは平日も休日も民間に委ねてもよいということなのか。新しい部活動についていえば、例えばバスケットボール部とか格闘技系の部活などが考えられる。

（岡本委員）

- 新しい部活動が、もしできた場合はその活動場所の提供はどうなるのか。

（寺田委員）

→ 受け皿が増えていくということは大歓迎である。（江間校長）

- 休日に施設を使用した場合、施設利用料は発生するのか。学校の部活と地域のクラブチームとの線引きはあるのか。（岡本委員）
→ 中体連の大会に地域のクラブチームも参加できるようになってきている。今は過渡期であるため、これからの数年間、生徒たちにどういうケアをしていくのかということも問題である。（宮津教頭）
- 部活動を選ばないという子供の割合はどれぐらいか。（寺田委員）

- 一定数はいると思われる。(江間校長)
- 地域のクラブチームには入部の人数制限はあるのか。(渥美委員)
→子供の希望に沿うことが出来ると思われる。掛川市では、市内を3つの地域に分けて、地域移行に向けての活動を始めている。(宮津教頭)
 - 三ヶ日のスポーツ協会との対話は行っているのか。スポーツ協会では、中学校から部活動を丸投げされるのでは、と危惧していた。中学校の部活レベルのことを求められても困ると言って心配していた。(渥美委員)
→指導者はなかなか見つからない。報酬がきちんとあると言えれば、指導をしてもよいという方も増えるのではと思われる。(江間校長)
 - 報酬はどうなっているのか。(岡本委員)
→決まっていない。(江間校長)
 - 今、施設を使用している部活動はあるのか。(岡本委員)
→卓球部等が使用している。(江間校長)
 - 野球の地域クラブを作るとなったら、指導者を見つけるのはなかなか難しいことではないかと思われる。(高橋委員)

イ) 臨時通学路の安全確保について

津々崎の通学路で行われている工事のため、生徒が臨時通学路で登下校しているが、その安全確保のため、教職員とPTAの方々と街頭指導を行っている旨、教頭より説明があった。

司会から、次回会議は、2025年2月5日(水)午後3時より三ヶ日中会議室にて開催する予定であるとの連絡があった。